



こんな症状があったら

虚血性心疾患を疑ってみる

(狭心症・心筋梗塞)

虚血性心疾患は、昼夜休まず働いている心臓の筋肉(心筋)に酸素と栄養を送り届けている冠動脈という血管の異常から起こります。ですから、別名冠動脈疾患とも呼ばれています。虚血性心疾患に早く気づくには、初期の自覚症状を知る事が大切です。

数分間胸肩から背中にかけて痛む

(五〇歳、ビジネスマン)

コンピュータ関係のビジネスマン、Aさんは過密なスケジュールで仕事をされる毎日。帰宅も深夜になることが多い。七年前、健康診断で軽い高血圧を指摘されたが、治療はしていなかった。寒い朝、通勤途中で突然胸肩から背中にかけて痛みが走った。しばらく痛みをこらえていると、三分で治まった。父親が心筋梗塞で亡くなっていることから心臓のことが少し気になる。



狭心症の疑いがあります。代表的な症状は胸痛ですが、歯やアゴの痛み、腕や肩の痛み、喉が詰まるなど、現れる症状はさまざまです。痛みは5分以内に消失するのが特徴です。

突然、激的な胸の痛みが長く続いた

(五十八歳、学校教師)

管理職のBさんは運動嫌いで知られている。退職したら書齋にこもり読書三昧が夢だ。ある夜、会議で遅くなり、タクシーで帰宅する途中、激しい胸の痛みに襲われた。痛みはなかなか治まらず、ただことではないと感じた。今まで狭心症の経験はない。



激しい胸痛が収まらない場合、第一に心筋梗塞が疑われます。狭心症と同様、胸部以外にもさまざまな部位に痛みを感じることもあり、ときに激しい腹痛で消化性潰瘍と間違われる場合もあります。痛みは15分以上持続するのが特徴です。すぐに救急車を呼びましょう。

駅の階段を昇るとき息切れしてしまう

(六〇歳、主婦)



主婦業三十数年のCさんは、更年期の頃から太りはじめ、三年前の成人病検診で軽い糖尿病と診断された。グルメのCさんにはショックで、初めは運動や食事に気をつけ

風邪でもないのに咳や声がかすれる

(七十五歳、年金生活者)

Dさんは会社を定年退職するころに狭心症を患った経験がある。五〇歳代から高血圧があったが、降圧薬は飲んだり飲まなかったりしていた。最近、風邪でもないのに咳や声がかすれることがあり、夜は枕を高くして寝ないと寝つけず、夜中に何回もトイレに立つ。疲れやすいため外出はせまなかったりしていた。



風邪でもないのに咳がでる、声がかすれる、夜間の尿量が増すというのは、心不全の初期症状にときどきみられます。心不全は心臓のポンプ機能の衰えにより起こるもので、息切れ、疲れやすい、むくみが主症状です。虚血性心疾患が原因であることがしばしばです。

四〇歳を過ぎたら欠かせない定期検診

胸に痛みや息苦しき、不安感など違和感を感じたら、専門の医師に診てもらい、一回定期検診を受けることが大切です。また運動や食生活にも気をくばりましょう。虚血性心疾患の危険因子には、高血圧、高脂血症、喫煙、糖尿病、肥満などがあります。自覚症状のない方は、早いうちから予防をこれらの状態が重なる虚



心臓の働きが弱った状態になると少しの運動でも息切れします。この人の場合は肥満が原因かもしれません。しかし、息切れは虚血性心疾患による心機能低下の一つです。精密検査を受けておくとよいでしょう。

日本心臓財団より

日本心臓財団は、わが国三大死因のうちの心臓病と脳卒中の制圧を目指して、一九七一年に発足いたしました。当財団は、研究に対する助成や予防啓発、また世界心臓連合加盟団体としての諸活動を通して、心臓血管病の予防・制圧に努めております。当財団は皆様の寄付により運営されています。どうぞ皆様の協力を願ひ申しあげます。

財団法人日本心臓財団
〒一〇〇〇一、五 東京都千代田区丸の内三、四一 新国際ビル
三三三三 一〇八
ホームページアドレス <http://www.jhf.or.jp/>